

限られた地域での透析患者のウィルス性肝炎および透析事故新規発生の 経年的調査と症例検討およびスタッフ教育を通じた予防対策に関する研究

分担研究者 渡邊 有三 春日井市民病院副院長
鈴木 正司 信楽園病院副院長
大平 整爾 札幌北クリニック院長
研究協力者 鶴田 良成 明陽クリニック院長

研究要旨 集団での体外血液循環を治療の基本とする透析医療では、ウィルス性肝炎感染の危険性は高い。特に透析患者は、過去に輸血による感染も多数経験しており、患者群としてのC型肝炎抗体陽性率は高く、これも新規感染の多さに関与していると考えられる。一方、近年の報告では、種々の防止対策を遵守することにより、新規感染率が減少してきている報告もある。

今回われわれは、限られた地域の透析施設について、ウィルス性肝炎の新規発生を前向きに調査すると同時に、スタッフを含めた定期的な会合を持ち、感染事故報告や症例検討会を通して施設の予防対策を向上せしめることにより、新規感染の防止を図ることを目的とした。

なおこのシステムは、単にウィルス性肝炎の新規発生のみならず、透析事故の発生予防にも共通して利用できるシステムであり、これについても研究を開始する予定である。

A. 研究目的

限られた地域内において、共通の認識を有する透析施設が参加し、ウィルス性肝炎の新規発生を報告するとともに、症例検討会や各施設における感染防止対策について討議することにより、新規発生を予防することを目的としている。この中では、スタッフの感染防止教育も重要な目的となる。また、同様の手法を用いて、透析事故防止をも図るものである。

B. 研究方法

ウィルス性肝炎新規感染事故については、春日井・小牧地区を中心に、2ヶ所の主として透析導入および透析合併症治療を扱う透析中核病院(市民病院)と、5ヶ所のサテライトユニットの維持透析患者を対象とした報告システムを確立した。今後4ヶ月に一度の中間報告会を開催するとともに、スタッフ教育のための研究会を開催する。

透析関連事故に関しては、愛知県透析医会会員に

呼びかけ、同様のシステムを確立する予定である。

C. 研究結果および進捗状況

平成15年1月を基点とした前向き調査であり、現在追跡対象となる患者の登録中である。ちなみに、愛知県透析医会では、平成11年度厚生省班研究の成果である「透析医療における標準的な医療操作と院内感染予防に関するマニュアル」の遵守状況を調査するとともに、肝炎の蔓延状況・新規発生について検討する目的で多施設共同研究を既に行ってきた。その結果、①2000年1月時点でのHCV抗体陽性率は20.1%、HBs抗原陽性率は2.4%で、日本全体での報告と大差がない結果であった¹⁾。②2000年1年間の新規肝炎発生の後向き調査では、HCV抗体陽転患者は11名(0.33%)、HBs抗原陽転患者は2名(0.05%)であった。集団感染は認められず散発的な発生であった。③マニュアルに推奨される透析操作に配慮しながら行った2001年1年

間の新規肝炎発生の前向き調査では、HCV 抗体陽転患者は 2 名 (0.07%) で、HBs 抗原陽転患者は 0% であった²⁾。

この多施設共同研究で観察された新規肝炎発生率は従来の報告と比べ明らかに低い結果であり、マニュアル遵守などの啓発活動により新規発生はさらに抑制される結果であった。

なお、対象患者は愛知県透析患者の 41% を占め統計的にも十分な数であるが、院内感染予防対策に積極的な施設が集まった結果であるとの誇りも否定はできない。今回の渡邊らが検討している限られた地域内での新規肝炎調査はこの研究を基盤にして、新たな研究を継続するものである。

また、透析関連事故については、各施設に対しての呼びかけが始まるところである。

D. 研究による期待される効果

透析施設におけるウィルス性肝炎感染や透析関連事故は、透析の黎明期からあったし、その数は決して減少してきたとはいえない。これは、研究要旨で

述べた透析治療の特殊な事情があるとしても、許容されるものではない。しかし、急性ウィルス性肝炎感染が感染症新法の施行により届け出制になったことと、集団感染がマスコミに報道されるに至り、すべての施設が真剣に予防対策に取り組み始めたといっても過言ではない。ただ、こうした感染や事故は発生した施設内で処理されることが多く、他施設にとっての教訓とは成り難いのが実情である。一方、透析医療は、患者の移動にさいしては、原則的にすべて情報提供が行われ、透析施設同士のつながりも密である。こうした事情から、今回の地域を限った感染や事故の情報を共有することは、それらの防止にとってきわめて有効な手段となりうると考えられる。

E. 文 献

- 1) 鶴田良成, 渡邊有三, 山崎親雄, 他: 愛知県の透析施設における B 型および C 型肝炎ウィルス感染の現況. 日本透析医会雑誌 16(3); 393-396, 2001
- 2) 鶴田良成, 渡邊有三, 山崎親雄, 他: 愛知県の透析施設における B 型および C 型肝炎ウィルス感染の現況 (第 2 報). 日本透析医会雑誌 17(3); 422-429, 2002